

親子2代 大谷で採掘 桜井金男さん 60

「歴史と効能 石は誇り」



多数の大谷石採掘場がある宇都宮市大谷町生まれ。中学卒業後、染め物工場勤務などを経て16歳で採掘を始めた。自らも採掘に従事していた父親は「きつい仕事だ」と猛烈に反対。当時の採掘は手掘り

で、約80kgの石を背負って人力で運び出していた。「でも、普通のサラリーマンの3〜4

この人

倍の収入は魅力的だった」

23歳の頃、一緒に採掘作業をしていた父親の頭上に、切り出した160kgほどの石が落下し、目の前で「く」なりました。「本当に危険で大変な仕事な

んだと、父親の言葉を実感した」。地下採掘場は年間平均気温が約8度。劣悪な環境で膝なども痛め、辞めようとも考えたが、残された母親ら一家の家計を支え続けた。

採掘に喜びを感じ始めたのは50歳を過ぎてから。家や堀になった石に触れ、硬さや模様で自分の掘った物かどうか分かるようになったという。

「歴史と効能を持つ大谷石は、大谷で生まれた自分の誇り。多くの人に楽しんでほしい」。石とともに歩んだ男は豪快な笑顔を見せた。(佐伯美保)

木

TOCHII